

部課名		文化スポーツ振興部文化振興課											
課の使命		誰もが文化芸術に親しむことができるよう、市民の文化芸術活動の振興や、魅力ある文化芸術とふれあえる環境づくりに取り組みます。そのための環境整備、鑑賞機会の創出、活動支援、情報発信を行います。											
実行計画(年度目標)													
年度目標設定													
順位	計画類型	取組項目	具体的な活動内容	指標	目標値	進捗状況	中間確認		年度未確認				
							上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括	目標値に対する実績値	評価	評価の視点	課題と対応
1	個別／全庁計画で取組む事業実施策見直し	町田の文化芸術の発信／「シティプロモーション」	他の分野と連携して文化芸術を推進し、誰もが文化芸術を楽しむことにより、市民の文化芸術への関心を高め、また、町田への愛着やまちのにぎわいにつなげるため、「(仮称)町田市文化芸術のまちづくり計画」を策定します。市内の文化芸術イベント情報を発信する「町田市文化芸術プロモーション」のインスタグラムの内容を向上させ、さらに市民や来訪者の等文化芸術への興味関心を高めていきます。	①計画策定 ②町田市文化芸術プロモーションのインスタグラムのフォロワー数	①完了 ②1,500人	○	①5月に若者(二十祭まちだ実行委員会)へのヒアリングを実施するとともに、庁内検討委員会と、町田市文化芸術のまちづくり計画策定懇談会を開催(5月・6月)し、庁内関係部署や有識者、関係団体の代表者の意見を参考に、計画の素案を作成しました。 ②1,500人定期的に文化芸術情報を発信するとともに、イベント主催者に対して積極的に投稿依頼の声掛けを行ったことで、幅広いジャンルの文化芸術情報を発信することになり、フォロワー数が増加しました。	①9月中旬から10月中旬にかけて、計画の素案に対する市民意見募集を行います。市民意見を踏まえ、庁内検討委員会と町田市文化芸術のまちづくり計画策定懇談会の意見を反映して12月に計画の原案を取りまとめ、年度内に策定完了します。 ②部内各課が個別に発信しているSNSとコラボレーションし、投稿なども工夫をこらすことで、市民等の文化芸術への関心を一層高めていきます。	①若者へのヒアリングや市民意見募集で寄せられた市民の声、さらに庁内検討会や町田市文化芸術のまちづくり計画策定懇談会での委員からの意見を反映し、2月に「町田市文化芸術のまちづくり計画」を策定完了しました。 ②1,610人市民の興味・関心を引くよう工夫しながら、文化芸術情報を定期的に発信しました。また、文化振興課が中心となって部内のSNS担当者や協力し、アイデアを出し合って投稿の内容や見せ方を工夫することや、部内でテーマごとに個別運用している7つのSNSアカウントとの相乗効果を高める共通の投稿(各SNSにリンクさせる一枚の画像を挿入)することで、目標を上回るフォロワー数を獲得することができました。	①完了 ②1,610人	B	B:当初の目標を上回る成果が上がったためです。	①計画に掲げる「目指す姿」の実現に向け、文化芸術プロジェクトや方針に基づく各取組を計画的に進める必要があるため、事業を着実に推進します。 ②部内における文化とスポーツの連携に加え、庁内の広報部門とも協力し、市としてより効果的な情報発信を行うことで、文化芸術に触れるきっかけとなるプロモーションを推進します。
2	事務事業見直し	文化芸術施設のあり方の見直し	文化芸術施設のあり方の検討を行うため、市内を中心とした文化芸術施設の現状把握を行うとともに、それらの強みや課題等の現状分析を行います。2027年度から新たな指定期間となるフォトサロン・町田市民ホール・和光大学ポブリホール鶴川の指定管理者の選定に向けて、施設の管理運営における課題を整理し、管理基準や業務範囲等の見直しを行います。そして、見直しの結果に基づき、次期指定管理者の募集内容や応募条件を決定します。	①市内文化芸術施設の現状分析 ②募集要項の作成	①完了 ②完了	○	①市内文化芸術施設の現状を把握するため、調査の対象や項目を検討しました。 ②各施設の管理運営における課題を整理するとともに、7月に都内自治体に対し調査を実施する等、管理基準や業務範囲の見直しを進めました。	①現状調査をするともに、2026年度以降に市内文化芸術施設等の役割をまとめることができるよう、各施設の強みや課題を整理します。 ②上半期に整理した管理基準や業務範囲に基づき、12月までに業務基準書を作成します。あわせて提案として求める応募書類や提案上限額を検討し、1月末までに募集要項を作成します。	①市内・近隣の大学等に対して保有する文化芸術施設に関するアンケート調査を行いました。本調査結果と過去に市民や文化芸術団体に対して実施したアンケート調査の結果をもとに、市内文化芸術施設の現状分析を行いました。 ②フォトサロン・町田市民ホール・和光大学ポブリホール鶴川の指定管理者の選定に向けて、施設の管理基準や業務範囲等の整理、見直しを行い、1月までに業務基準書や募集要項等を作成しました。	①完了 ②完了	C	C:目標水準を達成したためです。	①文化芸術活動のための新たな練習の場や制作の場を増やすため、2025年度に整理した市内文化芸術施設の現状分析を参考に、文化芸術施設のあり方をまとめます。 ②2025年度に決定した業務基準書等に沿って各施設の次期指定管理者の選定を行います。また、2027年度から適正かつ効果的に施設を管理運営できるよう、次期指定管理者と協議を行います。

順位	計画 類型	取組項目	年度目標設定			中間確認			年度末確認				
			具体的な活動内容	指標	目標値	進捗 状況	上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括	目標値に 対する 実績値	評価	評価の 視点	課題と対応
3	-	国際事業見直しに向けた取組	外国人支援事業の実施主体や担い手について整理し、国際交流センターとともに国際事業の見直しにむけて話し合っていきます。 また、増加する外国人住民に対し、分野横断的な対応として、関係部署と連携した行政サービスを提供していきます。	①市と町田国際交流センターとの事業区分の整理 ②分野横断的な連携事業数	①完了 ②2事業	△	①国際交流センターの業務内容やボランティア活動の状況を把握するためのヒアリングを実施するとともに、外国人支援体制の見直しに向けた話し合いを5月・6月・9月に行い、現状の整理を進めました。 ②外国人住民向けの行政サービスの提供にあたり、プラスチックごみの分別周知(環境資源部)や、小学校の入学説明会(学校教育部)の2事業について、国際交流センターとともに横断的に連携しました。	①引き続き、国際交流センターとの話し合いを実施し、次年度以降の市と同センターとの事業区分を整理していきます。 ②市内における「町田市在住の外国人支援に係る庁内連絡会」等を活用しながら、関係部署と更に連携していきます。	①2024年度から実施している外国人転入者向けアンケートを集計するとともに、国際交流センターの業務内容やボランティア活動の状況を把握するため、ヒアリングを実施しました。また、国や東京都、他自治体、市の現状を整理しました。その結果を基に、今後の外国人住民の増加に伴い見込まれる課題を設定し、市とセンターの役割を再確認するとともに、事業区分を整理しました。 ②2事業 外国人住民向け行政サービスの提供にあたり、プラスチックごみ分別の周知(環境資源部)や小学校入学説明会(学校教育部)の2事業について、事業所管課と当課、国際交流センターの3者で協議・連携し、外国人市民が制度を理解するための通訳支援を実施しました。また、「町田市在住の外国人支援に係る庁内連絡会」で、国や都からの多文化共生に関する取組、制度、補助金、研修情報を約50件共有し、各部署が最新動向を把握し業務に活かせるよう情報共有を図りました。	①完了 ②2事業	C	C:目標水準を達成したためです。	②増加する外国人住民のニーズの変化に対応し、必要な支援を提供していくため、「町田市在住の外国人支援に係る庁内連絡会」において、庁内における現状や課題を把握します。
4	人材育成	「チャレンジ志向」	町田駅前の路上で音楽活動をしている人が、正式な手続きを踏んで気軽に活動できるように、関係機関と調整しながら、活動場所を開拓していきます。	音楽活動ができる場所づくり	音楽活動場所の開拓	△	音楽活動場所の開拓に向けた事前調査として、7月に都内自治体に対する調査を実施し、取りまとめました。	調査結果をもとに、他自治体へのヒアリングを実施するとともに、音楽活動の場所の検討や、手続き整理等を行います。	「町田市文化芸術のまちづくり計画」の策定に先駆け、公共空間等を発表の場とする取組として「音楽活動ができる場」をつくるため、都内自治体への調査や、民間事業者および同様の取組を行っている都外自治体へのヒアリング、さらに都外1自治体への視察を通じて情報収集を行いました。その後、場所の検討等を進めることで、小田急町田駅前に候補地を1か所確保したものの、具体化には至りませんでした。	音楽活動場所の確保	D	D:取り組みましたが、成果が不十分であるためです。	駅周辺のその他のエリアで音楽活動が可能な場づくりを進めます。

部課名		文化スポーツ振興部スポーツ振興課											
課の使命		スポーツをする場所や機会を提供するとともに、スポーツ支援活動を支えることで、市民の健康で明るく豊かな生活を実現します。また、身近な生活の中でトップレベルのスポーツ等に親しむことができる環境を整え、活力ある社会を構築します。											
実行計画(年度目標)													
		年度目標設定				中間確認			年度未確認				
順位	計画類型	取組項目	具体的な活動内容	指標	目標値	進捗状況	上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括	目標値に対する実績値	評価	評価の視点	課題と対応
1	重点事業プラン	(仮称)町田木曾山崎パラアリーナ整備	2013年度に策定した「町田市木曾山崎団地地区まちづくり構想」において、健康増進関連拠点として位置づけている旧忠生第六小学校用地に、「(仮称)町田木曾山崎パラアリーナ」を整備するため、2025年度中に事業者の再公募・選定を行い、設計・整備工事を進めます。	事業者の再公募、選定及び契約締結	事業者選定・契約締結	○	事業者の選定に向けて、学識経験者等で構成される事業者選考委員会の意見を踏まえ、4月には募集要項等を公表し、現地見学会を実施しました。その後、5月に事業者からの参加表明書等を受け付け、6月に書類審査のうえ、7月に提案書類の提出を受け付けました。	10月に開催する事業者選考委員会における提案書類の評価を踏まえ、優先交渉権者を決定・公表し、12月に本契約を締結します。	事業者の選定に向けて、4月から公募を開始し、7月に提案書類を受け付けました。その後、10月に実施した、事業候補者選考委員会における評価結果を踏まえ、優先交渉権者を決定しました。12月に市議会の議決を経て、事業者と本契約を締結後、基本設計に着手しました。	事業者選定・契約締結	C	C:目標水準を達成したためです。	町田木曾山崎パラアリーナの整備に向けて、事業者と連携し、基本・実施設計を進めます。
2	重点事業プラン	パラスポーツの普及啓発・理解促進／「障がい者への差別を解消し共生社会の実現」	既存のスポーツ施設等を活用し、スポーツを楽しむことを通じて、ともに支え合う地域社会の実現に向けて、パラスポーツイベントや体験会を実施する等、パラスポーツの関係団体と連携した取り組み事業を進めます。	関係団体と連携した事業数	5事業	○	4事業 ・5月から7月にかけて、町田市バドミントン連盟および日本パラバドミントン連盟と連携し、市内の小学校で「パラバドミントン体験会」を5回実施しました。 ・7月には、総合体育館で開催したイベント「チャレンジマッスル」において、東京都国際スポーツ事業部と連携し、デフリンピックを紹介するブースを出展するとともに、8月には市庁舎のイベントスタジオにて、町田市聴覚障害者協会等と連携し、「デフリンピックや町田市にゆかりのあるデフアスリートを紹介する展示」を行いました。 ・また、9月には、市内の小学校において、日本財団パラスポーツサポートセンターが提供する体験型プログラム「あすチャレ！ジュニアアカデミー」を実施し、パラアスリート講師から共生社会について学ぶ機会を提供しました。	市内の小学校を対象とした「パラバドミントン体験会」をはじめ、日本財団パラスポーツサポートセンターと連携・協力して実施する「インクルーシブ運動会」や、日本ブラインドサッカー協会と連携した「ブラインドサッカー体験イベント」の実施などを通じて、引き続きパラスポーツの普及啓発および理解促進に取り組んでいきます。	市内の小学校において、1年を通じて、「パラバドミントン体験会」を実施しました。また、総合体育館においてブラインドサッカー体験会及びパラスポーツ体験ブースの設置等を行いました。さらに、市庁舎において、東京2025デフリンピックのPRブースを設置した他、当初の予定に加えて、日本財団パラスポーツサポートセンターと市内の小学校をつなぎ、市内で初めて、通常の運動会種目に車いすリレーを取り入れた、「インクルーシブ運動会」を実施し、その様子が新聞やテレビで紹介される等、市内のみならず、広く本市のパラスポーツの普及啓発・理解促進取組を発信することができました。	9事業	B	B:当初の目標を上回る成果が上がったためです。	引き続き、関係団体等と連携・協力し、パラスポーツの普及啓発及び理解促進につながる体験会やイベント等を実施します。
3	重点事業プラン	ホームタウンチーム支援	ホームタウンチームの活躍等を周知するため、チームと連携してホームゲーム情報等の発信やX(旧Twitter)・広報・ホームページ・横断幕掲出等のPR活動を積極的に行います。また、庁内各部署との連携を図り、様々なイベント等のPR活動を行います。	広報等周知活動の取組回数	270回	○	119回 ホームタウンチームのPRのため、広報まちだや生涯学習NAVIでの情報掲載、ホームページ、X(旧Twitter)での情報発信、チームの開幕戦やイベントの周知を目的としたホームタウンチームに関連するブース出展を市庁舎で開催する等、周知活動を119回行いました。(広報まちだ:3回、生涯学習NAVI:2回、HP:4回、X:100回、その他:10回) また、9月に、ホームタウンチームと観光まちづくり課が連携して実施した、「四季彩の社ウォーク」のPR活動を行いました。	引き続き、広報まちだやホームページでの周知活動を行うとともに、ホームタウンチームの活動に合わせて、X(旧Twitter)を活用した情報発信等も積極的に行ってまいります。	ホームタウンチームのPRのため、広報まちだやホームページ、X(旧Twitter)での情報発信、FC町田ゼルビアの天皇杯優勝関連展示会の開催、町田駅ペデストリアン1号デッキウォールギャラリーへのポスター展示、鶴川駅北口広場と総合体育館への装飾等、周知活動を年間で272回行いました。(広報まちだ:5回、生涯学習NAVI:4回、HP:6回、X:237回、その他:20回)	272回	C	C:目標水準を達成したためです。	引き続き、広報まちだやホームページ、X(旧Twitter)でのホームタウンチームの周知活動を行います。加えて、ホームタウンチームのホームゲーム情報だけではなく、年々取組み事例が増えている町田市とホームタウンチームとの協働事業についても、周知活動を行います。

順位	計画 類型	取組項目	年度目標設定			中間確認		年度末確認					
			具体的な活動内容	指標	目標値	進捗 状況	上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括	目標値に 対する 実績値	評価	評価の 視点	課題と対応
4	個別 計画	スポーツボランティア活動支援	まちだのスポーツを「支える」、市民ボランティア「まちだサポーターズ」の会員数を維持するとともに、活躍できる機会をより多く提供するとともに、研修会等を実施することで活動を支援します。	「まちだサポーターズ」延べ活動人数	3,400人	○	1,201人 ホームタウンチームのホームゲーム等でボランティアとして活躍し、上半期で延べ1,201人が活動しました。また、まちだサポーターズ自らが企画した「聖火リレーコースを歩こう・ボッチャ大会・まちカフェ出展」には15人が事業実施に向けたプロジェクトチームに参加し、独自の活動ができるための場所づくりとして、会場の確保や、イベント主催者との連絡調整等を行いました。9月には、健康で元気に活動することを目的として、保健所から講師を招き、栄養に関する健康セミナーを開催しました。	まちだサポーターズが1人でも多く活動していたできるよう、FC町田ゼルビアが出演するACLEのホームゲームをはじめとして、活動機会に関する情報発信を行います。また、活動機会を増やすためにイベント主催者への協力依頼についても積極的に情報発信していきます。さらに、研修や各プロジェクトチームについては、イベントが円滑に実施できるようまちだサポーターズへの活動支援を進めていきます。	上半期に引き続き、ホームタウンチームのホームゲーム等でボランティアとして活躍し、年間延べ2,521人が活動しました。活動機会は2024年度並みに提供できましたが、登録者数が2024年度比で約80人減少したことにより、目標値を下回りました。新規会員の獲得に向け、各市民センターでの募集ポスター掲出や、「まちカフェ」で会員募集等を行いました。また、会員の日々の活動を支援することを目的として、保健所や東京都から講師を招き、研修会を行いました。	2,521人	D	D:取り組みましたが、成果が不十分であるためです。	登録者数の減少等により、イベントへの参加者が減少傾向ではありますが、安定的にボランティア活動の場を提供できるよう、広く、まちだサポーターズの周知を行うとともに、新規会員の獲得に向けた活動を支援します。また、活動意欲の維持・向上を図るため、研修会を実施します。
5	人材 育成	「チームワーク志向」	ワークライフバランスの実現を図るため、週に1回の定時退庁を徹底するとともに、複数人で行う業務等を各担当の枠を超えて協力してフォローすることで、一人当たりの月平均時間外勤務時間数を減らします。	一人当たりの月平均時間外勤務時間数	25時間以下/月	○	18時間 管理職が朝礼時に、定時退庁日の声掛けを行うことで、職員各自の定時退庁の意識付けや作業の効率化に繋がりました。また、係長以上ミーティングで各班の業務や作業の予定を共有することで、事前に人手が必要な作業等が分かり、担当を越えた連携が取りやすくなりました。結果、上半期終了時点で、一人当たりの月平均時間外勤務時間数が約18時間となり、目標を超える成果を上げました。	下半期には、町田市こどもマラソン大会や町田市スポーツ推進審議会等のイベントや会議が控えているため、引き続き担当の枠にとらわれない協力体制の継続や定時退庁の意識向上を図り、ワークライフバランスの実現に努めていきます。	朝礼時に管理職から定時退庁やインターバル確保の呼びかけをすることにより、各職員の意識付けを行いました。また、封入封緘作業などの定型業務は、ワークサポートルームを活用する、課全体で積極的に声掛けと分担をするなど、業務量の効率化や標準化を行いました。併せて、テレワークやWEB会議を活用することで、柔軟な働き方を推進し、個々のライフスタイルに合わせた働き方の実現に取り組みました。こうした取り組みの結果、一人当たりの月平均時間外数は20.9時間となり、2024年度の26時間を下回ることができました。	20.9時間	B	B:当初の目標を上回る成果が上がったためです。	目標値は達成したものの、時期や職員によって時間外勤務時間数に未だ偏りがあるため、業務の進め方の見直しと標準化を図っていく必要があります。

部課名		文化スポーツ振興部美術館課											
課の使命		誰もが文化芸術に親しむことができるよう、優れた美術作品に触れる機会や、創作・発表の場を提供する活動に取り組みます。そのための美術作品の収集・保存・研究、展覧会と教育普及活動、文化振興やブランドイメージ向上のための情報発信を行います。											
実行計画(年度目標)													
年度目標設定													
順位	計画類型	取組項目	具体的な活動内容	指標	目標値	進捗状況	中間確認		年度末確認				
							上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括	目標値に対する実績値	評価	評価の視点	課題と対応
1	重点事業プラン	魅力的な展覧会やイベントの開催	<p>①より多くの来館者に版画を楽しんでいただくため、「日本の版画1200年」展や「版画はアートなの？(仮)」展などの収蔵品を活用した魅力ある展覧会を実施します。</p> <p>②より多くの人に工芸美術を楽しんでいただくため、収蔵作品の新たな魅力を引き出す展覧会や体験講座、ブース出展などのイベントを実施します。</p>	<p>①国際版画美術館での企画展・特集展示の観覧者数</p> <p>②工芸美術の魅力伝える出張展覧会とイベント回数</p>	<p>①85,000人</p> <p>②53回</p>	○	<p>①38,000人 企画展を2回(「日本の版画1200年」展、「版画ってアートなの？」展)、特集展示を2回(「ふぞろいの版画たち-西洋版画のシリーズとステート」展、「ドミエ、どう見える？-19世紀フランスの社会風刺」展)実施し、38,000人にご観覧いただきました。</p> <p>②35回 体験講座(カレー皿や紙漉きの団扇の制作など)を29回実施しました。ブース出展については、びつちよりまつりやシバヒロマルシェなど市内で開催されるイベントの機を逃さずに出展した結果、当初の予定より多い6回行いました。計35回の実施を通じて、工芸の魅力に触れていただきました。</p>	<p>①企画展を2回(新収蔵作品展、第39回町田市公立小中学校作品展)、特集展示を2回(「夢の江戸へ-美人画と歴史ロマン」展、「はんが探検隊-大きな版画の世界ようこそ！」展)開催し、計95,000人にご観覧いただきました。一年を通じて特集展示が好評で、平均11,000人を超える多くの方にご覧いただくことができたことにより、目標を上回ることができました。</p> <p>また、版画への興味・関心を高め観覧者数の増加を図るため、外部講師や国際版画美術館学芸員による連続講演会を実施します。</p> <p>②展覧会、体験講座、ブース出展を計26回計画・実施し、引き続き工芸の魅力伝えていきます。</p>	<p>①企画展を4回(「日本の版画1200年」展、「版画ってアートなの？」展、新収蔵作品展、第39回町田市公立小中学校作品展)、特集展示を4回(「ふぞろいの版画たち-西洋版画のシリーズとステート」展、「ドミエ、どう見える？-19世紀フランスの社会風刺」展、「夢の江戸へ-美人画と歴史ロマン」展、「はんが探検隊-大きな版画の世界ようこそ！」展)開催し、計95,000人にご観覧いただきました。一年を通じて特集展示が好評で、平均11,000人を超える多くの方にご覧いただくことができたことにより、目標を上回ることができました。</p> <p>また、講演会を7回(「ココがすごい！版美のコレクション」)実施しました。国際版画美術館学芸員や外部講師が講演し、講演内容に関連する作品の鑑賞をあわせて行うことにより、ユニークな視点の作品の見かたや最新の調査研究の成果を、より深くご理解いただける内容で、400名の方にご参加いただきました。</p> <p>②陶磁器とガラスを中心に工芸の魅力に触れていただける展覧会、体験講座、ブース出展を計78回実施しました。展覧会では近年収蔵された作品を紹介することができました。体験講座ではアンケート結果などに基づき、幼児から大人まで参加できる陶芸の自由講座や、季節感を意識したガラスのクリスマスツリー制作講座などを実施しました。さらに、市内で開催されるイベントに積極的にブース出展することにより、地域との新たな関係を構築し、結果として当初の予定を上回る出展回数となりました。</p>	<p>①95,000人</p> <p>②78回</p>	B	<p>B:当初の目標を上回る成果が上がったためです。</p> <p>②(仮称)国際工芸美術館開館後の事業を見据え、市内外の多様な団体と連携して工芸の魅力を感じていただける展覧会、体験講座、ブース出展を実施します。</p>	<p>①引き続き、魅力ある展覧会を開催するとともに、展覧会の魅力を効果的に発信していくため、SNS等を活用して周知を図っていきます。</p> <p>②(仮称)国際工芸美術館開館後の事業を見据え、市内外の多様な団体と連携して工芸の魅力を感じていただける展覧会、体験講座、ブース出展を実施します。</p>
2	／全重点事業プラン組む施策	子どもが美術に触れる機会の創出/「子どもにやさしいまちの実現」	<p>①子どもと保護者に版画に親しんでいただくため、国際版画美術館の施設や収蔵品を活用した魅力あるイベントを実施します。</p> <p>②市内の学校に通う子どもが誰でも工芸美術に親しめる環境整備を目的に、学校と連携して工芸制作プログラムを実施するため、プログラムの共同研究を行う協力校を選定します。</p> <p>③市内の小中学校で工芸美術に関する出張授業を行います。</p>	<p>①子ども向け版画鑑賞・制作イベント回数</p> <p>②工芸制作プログラムを実施する協力校数</p> <p>③工芸出張授業数</p>	<p>①6回</p> <p>②2校</p> <p>③10コマ</p>	○	<p>①8回 子ども向け版画鑑賞・制作イベント(親子向けバックヤードツアー、0歳から参加できる展覧会ツアーなど)を、計8回開催しました。</p> <p>①1校 昨年度協力校に選定した町田第三小学校と、連携事業の実施に向け準備を進めました。また、中学校教育研究会美術部会の研修に参加し、各中学校との今後の連携の可能性を探りました。</p> <p>③5コマ 市内の小中学校1校で計5コマ、工芸美術に関する出張授業を行いました。</p>	<p>①引き続き、より多くの方にご参加いただけるイベントにするため、周知・準備を進めます。</p> <p>②10月頃に市内の小中学校で聞き取りを進め、1月頃を目途に新たな協力校を選定します。</p> <p>③市内の小中学校各1校で計6コマ、工芸美術に関する出張授業を行います。</p>	<p>①小学生向けの制作講座を4回、未就学児から小学生までの子どもと保護者を対象にした版画鑑賞会を4回、小学生と保護者を対象にしたバックヤードツアーを1回実施しました。夏休みをより充実したものにするため、親子向けのイベントを3回追加で実施した結果、年度目標6回を上回る計9回開催することができました。子ども講座では制作と展示、鑑賞と制作という構成で質の高い学びの機会を提供し、鑑賞会とバックヤードツアーでは子どもと大人の両方が楽しめる内容を提供しました。</p> <p>②昨年度協力校に選定した町田第三小学校と連携事業を実施し、さらに「市内小学校連携連携成果展」の開催を実現しました。また、市内の小中学校に聞き取りを行い、南大谷中学校を協力校に選定しました。</p> <p>③市内の小中学校2校で9コマ、中学校2校で8コマ、計17コマの工芸美術に関する出張授業を行い、工芸の魅力を伝えました。</p>	<p>①9回</p> <p>②2校</p> <p>③17コマ</p>	B	<p>B:当初の目標を上回る成果が上がったためです。</p> <p>②新たに選定した協力校とともに、他校でも実施可能な工芸にかかわる観賞授業のプランを作成します。また、本年度実施した事業については、さらに質を高めています。</p> <p>③引き続き、市内の小中学校で工芸美術に関する出張授業を行います。</p>	

順位	計画 類型	取組項目	年度目標設定			中間確認		年度末確認					
			具体的な活動内容	指標	目標値	進捗 状況	上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括	目標値に 対する 実績値	評価	評価の 視点	課題と対応
3	-	SNSを活用した情報発信	①美術を楽しむ人と来館者を増やすために、国際版画美術館の活動や収蔵品に関する情報をSNSで積極的に発信します。 ②博物館が所蔵する工芸作品などを積極的に紹介し、(仮称)国際工芸美術館開館への機運を高めます。	①国際版画美術館のX及びInstagramの投稿数 ②博物館のX及びInstagramの投稿数	①240回 ②240回	○	①260回 展覧会の作品解説や、美術館の施設紹介、ミュージアムショップの商品の紹介、展覧会チケットの割引制度の紹介など計260回の投稿を行いました。 ②120回 作品や体験講座の紹介など120回の投稿を行いました。	①②投稿数を増やすとともに、InstagramのストーリーやハイライトなどSNS機能を活用し、投稿内容を充実させます。	①展覧会やイベントに関する詳細情報、ミュージアムショップのグッズ紹介などの魅力的な内容をこまめに発信し、企画展を実施していない時期でも季節やイベントにまつわる収蔵品紹介や開館情報などを積極的に投稿しました。これにより投稿回数は目標値を上回り、フォロワー数はXで前年度比約9%、Instagramで24%増加しています。 ②所蔵作品の紹介や体験講座の告知など計240回の投稿を行いました。また、展覧会を紹介するリール動画を投稿し、作品の魅力発信および展覧会の広報を行いました。	①380回 ②240回	B	B:当初の目標を上回る成果が上がったためです。 ②催事に併せてリール動画の発信も行い、作品やイベントの魅力について広く知ってもらえるよう効果的なSNS利用の方法を引き続き検討します。	①展覧会情報や豊富な収蔵品を紹介する内容、イベント情報など、美術館の活動を積極的に情報発信するよう努めます。 ②催事に併せてリール動画の発信も行い、作品やイベントの魅力について広く知ってもらえるよう効果的なSNS利用の方法を引き続き検討します。
4	人材育成	「改革・改善志向」	国際版画美術館、博物館と美術館整備担当との情報共有の場を設け、芹ヶ谷公園“芸術の杜”推進事業を円滑に遂行するための下地を作ります。	国際版画美術館、博物館と美術館整備担当との連絡会議開催回数	12回	○	6回 勤務地が3か所に分散しており休日も異なるため、情報の共有等が課題となりますが、連絡会議を毎月定例化し、目標通り半年間で計6回開催しました。 加えて平日は毎日オンライン会議システムを利用したリモート朝礼を開催し、遠隔地で業務する職員間の情報連携を行っています。更にグループチャットも活用して、情報伝達・共有をより密にしています。	引き続き、連絡会議を定例開催するとともに、オンライン会議システムやグループチャットなどを有効に活用し、課内連携をはかります。	勤務地が3か所に分散しており休日も異なるため、情報の共有等が課題となりますが、月例で連絡会議を実施し、目標通り計12回開催しました。 会議時はリモートシステムを活用し、距離が離れた勤務地からも積極的に参加できるようにすることで、協議内容を充実させています。更にグループチャットも活用して、情報伝達・共有をより密にし、課題に取り組んでいます。また、情報共有にとどまらず、国際版画美術館と連携した「まちだ ガラス&やきもの市」等を実施した他、アート出合いの広場の将来像を話し合うワーキンググループを立ち上げる等、芹ヶ谷公園“芸術の杜”推進事業を共に遂行するための下地作りを進めました。	12回	C	C:目標水準を達成したためです。	課内の意思疎通をより緻密かつ円滑に行う事を課題とし、より効率的な情報共有によって体制を強固なものにすると共に、イベントにおける連携企画の実施を拡大していきます。

部課名		文化スポーツ振興部美術館課 美術館整備担当											
課の使命		町田市市中心市街地に隣接する緑豊かな都市公園である芹ヶ谷公園に、(仮称)国際工芸美術館、(仮称)公園案内棟／喫茶／版画工房／アート体験棟、アート・出合いの広場を整備するプロジェクト「芹ヶ谷公園“芸術の杜”」によって、まちに新たな賑わいと交流を生みだすとともに、町田市全体の魅力向上、ブランド価値の向上を目指します。											
実行計画(年度目標)													
		年度目標設定				中間確認			年度未確認				
順位	計画類型	取組項目	具体的な活動内容	指標	目標値	進捗状況	上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括	目標値に対する実績値	評価	評価の視点	課題と対応
1	重点事業プラン	芹ヶ谷公園“芸術の杜”「美術エリア」の整備	・(仮称)国際工芸美術館の整備工事発注に向け、修正設計業務を実施します。 ・(仮称)公園案内棟／喫茶／版画工房／アート体験棟について、再積算業務を実施したうえで、整備工事を実施します。	芹ヶ谷公園“芸術の杜”「美術エリア」整備の進捗状況	(仮称)国際工芸美術館及び(仮称)公園案内棟／喫茶／版画工房／アート体験棟の整備工事実施	○	・(仮称)国際工芸美術館について、建築物省エネ法の改正に伴う修正設計を行いました。また、物価上昇等の増額を反映させ、第3回市議会定例会に整備に係る補正予算を計上しました。 ・(仮称)公園案内棟／喫茶／版画工房／アート体験棟について、工事費の再積算を行った後、9月4日に工事公告を行いました。入札参加者から辞退届が提出されたため、入札を中止しました。	・2026年3月の整備工事契約に向けて、手続きを進めます。契約後、整備工事を進めます。 ・整備工事契約に向けて、手続きを進めます。契約後、整備工事を進めます。	(仮称)国際工芸美術館について、2025年11月6日に工事公告を行い契約手続きを進めましたが、2026年1月16日付けで入札中止となり、工事を開始することができませんでした。また、(仮称)公園案内棟／喫茶／版画工房／アート体験棟についても、2025年9月4日に工事公告を行いました。入札参加者から辞退届が提出されたため、入札を中止しました。そのため、芹ヶ谷公園“芸術の杜”の実現に向けた整備スケジュールの見直しを行いました。	(仮称)国際工芸美術館及び(仮称)公園案内棟／喫茶／版画工房／アート体験棟の整備スケジュールの見直し	D	D:取り組みましたが、成果が不十分です。	入札の不調が続く原因を整理し、対策を講じる必要があります。
2	重点事業プラン	芹ヶ谷公園“芸術の杜”実現に向けた機運醸成の取組み	芹ヶ谷公園が“芸術の杜”として町田の多様な文化芸術活動の拠点となり、より多くの人に愛される公園となるように育て、盛り上げていくための取組みを進めます。	公園利用者がFuture Park Labにおいて文化芸術に触れたと感じた割合	80%	◎	8月16日に芹ヶ谷公園の将来の姿を想像・創造するイベント「Future Park Lab 2025 Summer」を開催しました。インドネシアの影絵や、市内大学の学生によるライトアップ、閉館後の美術館で鑑賞を行うナイトミュージアム等を実施しました。当日は多くの方にご来園いただき、多様な文化芸術活動の拠点としての公園の魅力や新たな活用方法を伝えることができました。オンラインアンケートも活用して行った、公園利用者を対象としたアンケートでは、イベントにおいて文化芸術に触れたと感じた割合は97.6%となりました。	10月、12月、3月にも、事業者や市内大学等と連携しながら、「Future Park Lab」を実施する予定です。引き続き公園利用者が文化芸術に触れられるよう、企画の準備を進めます。	芹ヶ谷公園の将来の姿をみんなで想像し、創造する市民参加型の公園活用実証実験イベント「Future Park Lab」を、2025年8月、12月、2026年3月に実施しました。(10月は雨天のため中止しました。)市がホストタウンに登録しているインドネシアの影絵や、市内大学の学生による桜・金魚をイメージしたライトアップ、夜の美術館を学芸員と一緒に探検するナイトミュージアムや美術館で音楽を楽しむピアノの演奏会等を行いました。その他にも、様々な団体との連携による企画を行いました。いずれのイベントも多くの方が来園し、多様な文化芸術活動の拠点としての公園の魅力や新たな活用方法を伝えることができました。アンケートでは、回答者の多くが公園利用者よりもイベント参加者であったこともあり、イベントにおいて文化芸術に触れたと感じた割合は99.2%となりました。	99.2%	C	C:目標水準を達成したためです。	・引き続き地域の方々等との連携を強め、関係を構築していくことで、多くの方に愛される公園となるよう、“芸術の杜”の実現に向けた取り組みを継続して進めていきます。 ・市民が文化芸術・自然に触れることができるよう、各広報媒体を引き続き効果的に活用し、計画的な情報発信を進めていきます。
3	重点事業見直し	財源確保の取組み	ふるさと納税や補助金による、新たな財源の確保を進めます。“芸術の杜”の実現に関心持つ民間事業者に対しては、企業版ふるさと納税の更なる周知を行います。	新規の補助金の活用または当課の周知活動による企業版ふるさと納税寄付の合計件数	1件	○	・昨年度納税いただいた民間事業者には、納税によるインセンティブとしてイベントチラシに事業者名を記載するなど、寄付に繋がるような取り組みを行いました。上半期の寄付はありませんでした。 ・(仮称)公園案内棟／喫茶／版画工房／アート体験棟整備にあたり、市内では町田市が唯一獲得した国の補助金「新しい地方経済・生活環境創生交付金(第2世代交付金)」の交付が決定しました。	・引き続き、“芸術の杜”に関わりのある民間事業者を中心にふるさと納税の周知を進めていきます。 ・交付金を十分に活用できるよう、(仮称)公園案内棟／喫茶／版画工房／アート体験棟整備事業を着実に進めていきます。	事業を紹介するパンフレットを作成し、そのパンフレットから“芸術の杜”の実現に新たに關心を持った民間事業者1社から、寄付がありました。 ・(仮称)公園案内棟／喫茶／版画工房／アート体験棟整備にあたり、市内では町田市が唯一獲得した国の補助金「新しい地方経済・生活環境創生交付金(第2世代交付金)」の交付が決定しました。	2件	B	B:当初の目標を上回る成果が上がったためです。	・引き続き寄付いただけるよう、周知活動を進めます。 ・来年度以降、交付金を活用できるよう、準備を進めます。

順位	計画 類型	取組項目	年度目標設定			中間確認		年度末確認					
			具体的な活動内容	指標	目標値	進捗 状況	上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括	目標値に 対する 実績値	評価	評価の 視点	課題と対応
4	人材 育成	「改革・改善志 向」	国際版画美術館、博物館とイベント等の情報共有の場を設け、芹ヶ谷公園”芸術の杜”推進事業を共に遂行するための下地を作ります。	国際版画美術館、博物館と美術館整備担当との連絡会議開催回数	12回	○	勤務地が3か所に分散しており休日も異なるため、情報の共有等が課題となりますが、月例で連絡会議を実施し、目標通り半年間で計6回開催しました。 加えて平日は毎日オンライン会議システムを利用したリモート朝礼を開催し、遠隔地で業務する職員間の情報連携を行っています。更にグループチャットも活用して、情報伝達・共有をより密にしています。	引き続き、連絡会議を定例開催するとともに、オンライン会議システムやグループチャットなどを有効に活用し、課内連携をはかります。	勤務地が3か所に分散しており休日も異なるため、情報の共有等が課題となりますが、月例で連絡会議を実施し、目標通り計12回開催しました。 会議時はリモートシステムを活用し、距離が離れた勤務地からも積極的に参加できるようにすることで、協議内容を充実させています。更にグループチャットも活用して、情報伝達・共有をより密にし、課題に取り組んでいます。また、情報共有にとどまらず、国際版画美術館と連携したナイトミュージアム企画や、博物館と連携した「まちだ ガラス&やきもの市」等を実施した他、アート出合いの広場の将来像を話し合うワーキンググループを立ち上げる等、芹ヶ谷公園”芸術の杜”推進事業を共に遂行するための下地作りを進めました。	12回	C	C:目標水準を達成したためです。	課内の意思疎通をより緻密かつ円滑に行う事を課題とし、より効率的な情報共有によって体制を強固なものにすると共に、イベントにおける連携企画の実施を拡大していきます。